

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	GHの方針として「少人数・家庭的な環境を活かし、利用者一人ひとりの個性と主体性を大切にしたい援助を目指す。」「落ち着いた雰囲気の中で過ごし、ご家族・地域との関係を継続していただける援助を目指す。」という事の2点をあげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	個々の入居者に合わせた、のんびりとした時間を過ごすことが出来るように取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居前の説明や、玄関の掲示板にてGHの方針などを伝えていくようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関先に花やベンチがあることで通りがかりの方からも声を掛けて頂いたり挨拶を交わすことはよくみられている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人憩いの家で毎月行われている異サロン、異喫茶、北鶴食事サービスに参加している。区内で開催される運動会や地域での盆踊りへも参加している。また法人の開催する納涼祭には地域の方にも来て頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特にGHとしては行っていないが、法人として在宅介護支援センターを通じた取り組みを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果をもとに改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者の状態や活動の報告を行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて連絡を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所内での研修が不足している。	○	資料や外部研修を利用し学んでいく機会をもちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での研修が不足している。	○	資料や外部研修を利用し学んでいく機会をもちたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	事業所からの一方的な説明にならないように気を付けて説明を行っている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	入居者からの意見を聞くように心掛けている。また改善の必要があればその都度対応している。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	金銭管理の報告は3ヵ月に一度出納帳にて報告している。健康状態や近況については面会の際や電話にて必要に応じて伝えるようにしている。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご家族等からの意見はその都度お聞きするようにしている。	○ 職員側からもご家族へ尋ねていくことが必要と思われる。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月の会議では入居者や業務のことが中心に話し合われている。運営について意見を聞く機会は特に作っていない。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	必要に応じて勤務の調整を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者との馴染みの関係が認知症介護にとって大切である事を理解し、一度に複数の異動は行わないなどの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の機会を設けている。 内部研修については認知症介護についての季刊誌を定期購読するなどしている。	○	新人職員の教育についてマニュアル化したものが無いので、人材育成の為に作成する必要があると感じている。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市老人福祉施設連盟グループ分科会での集まりや大阪市グループホームネットワークでの研修参加を定期的に行っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員から意見のあった件については、必要に応じて工夫や環境づくりを行っている。	○	面談する機会を定期的につくってもらいたいと思っている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	実績や努力にについて評価するように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の面接時や入居後にもその都度聞いていくようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の面接時や入居後にもその都度聞いていくようにしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて他のサービスの説明や当事業所についての説明を行っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染んで頂けるように数回見学をして頂いた場合や、面接をグループホームで行うなどの対応を柔軟に行っている。 入居後も本人のホームでの生活リズムがつかめる様に努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の出来る事をみつけ、お手伝いをして頂けることはお願いするようにしてお互いに「ありがとう。」の言い合える関係をもつようになっている。 入居者からも自然と悩みや嫌な事が話せるような雰囲気や関係づくりに気をつけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	相談やお願いごとがあれば連絡をとり合うようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族が良い距離感を保てるように配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた地域での食事サービスに参加したり、馴染みのある所への外出を行っている。 入居者の知人と会える機会にも配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士でも顔なじみとなり、会話や関わりもみられている。一緒に散歩へ出掛けたり、行事に参加するなど入居者同士が関わり合える場を提供をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	郵便物の郵送など必要のある際には、電話で連絡をさせてもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に応じて対応している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで通りの生活に近い過ごし方をして頂けるように柔軟に対応している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人やご家族等からの話を聞き現状を把握するようにしている。 日々の心身の状態の変化にも注意しながら一日の過ごし方を本人に合ったスタイルで過ごして頂ける様に心掛けている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人に合った介護計画を作成できるように意見を出し合い作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しを行い新たな問題が無いかを話し合っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、ケースファイル、連絡ノートへの記録を行い見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて対応している。 同じ法人内での歌体操などへも参加することができている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて協力をお願いしている。。	○	色々なボランティアにきてもらえれば良いと思う。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	事例がない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事例がない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医への受診をして頂いている。何かあれば電話にて相談することも出来ている。管理医師によ2回/週の回診や法人への往診にて 歯科、皮膚科の受診が可能です。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医との関係を築いている。	○	専門医との関係を築ければと思う。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主にかかりつけ医へ相談している。日常的な緊急性のない件については併設施設の看護師へ相談することもある。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院側担当者や事業所の管理医師と連絡をとりあい連携している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個別のケースによって違いがあると思われるが、医療的な対応が必要となった場合（例えば点滴が必要な状態など）には退所についての話し合いを始める段階と考えている。	○	早い段階で話し合い、今後の事を決めていく必要がある。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医との話しをしていくように検討している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	環境の変化によるダメージを軽減できるように努めている。	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	ケースファイル等の個人情報の記載されている物は全て職員室内か入居者の目の届かない所で保管している。 トイレや更衣時のカーテンなど忘れないように気をつけている。	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	日々の生活の中で本人に分かってもらい易いように説明を変えたり選択肢を減らす等して決められる事は決めて頂いている。 入居者の自己決定や希望を導くような声掛けを行っている。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	個人それぞれの希望に沿うように心掛け、入居者のペースを大切にして過ごして頂いている。	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	本人又はご家族の希望で、定期的にある特養での出張理容サービスを利用している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>炊飯と汁物作りをGHで行っている。可能な方には食事の盛り付け・配膳・洗い物をお願いして職員と一緒にやっている。 月に1度カレー作りをしたりおやつ作りをしている。</p>		
55	<p>買い物に出掛けた際、入居者の好きなお菓子を購入し本人で管理されたり職員で預かって提供している。</p>		
56	<p>トイレ誘導の必要な方には排泄パターンの把握に努め、個々に合わせた対応を行っている。また自らトイレに行かれる方にも必要に応じて付き添いを行っている。 失禁の少ない方には出来るだけ普通の綿のパンツを使ってもらえるように変更を試みている。</p>		
57	<p>個々の身体状況やその日の体調、気分を考慮し2～3日おきに入浴して頂いている。入浴を好まれていない方にもスムーズに入浴して頂けるように声掛けのタイミングを考えて行っている。</p>		
58	<p>入居者が快適に休んで頂ける様に室温調整を行っている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>希望に応じて散歩や買い物、玄関のベンチで座って過ごすなどの気分転換を行っている。 水やり・洗濯物たたみ・テーブル拭き等の出来る事はお願いでいくようにしている。 週に1, 2回囲碁の相手をして下さる方が居る。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理のできる方には現金を持って頂き、買い物の際には自分で支払いをして頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別の買い物や散歩の希望がある時には、出来るだけ入居者と一緒に出掛けるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	馴染みのある場所へドライブに行くことがある。観劇や旅行に出掛けられる方もいる。	○	全員の希望にそえていないので、なるべく多くの方の希望にそっていき事が出来れば良いと思う。電車などを使った外出をした事がない。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてご家族へ電話をかけて頂いている。ご家族や友人からグループホームに電話をかけて頂き本人と話して頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時にはこだわらず、いつでも来て頂いた時に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の無いケアを心掛けて対応をしている。	○	全ての職員が禁止の対象となる具体的な行為について理解しているのかは個人差がある。。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関自動ドアについては入居者の安全上の理由から施錠を行っている。気候の良い時期には玄関ドアを開放し圧迫感のない雰囲気になるように行っている。また、入居者の外出の希望や外へ行きたい様な様子が見られた時は、その都度付き添って出掛けるように配慮している。主に午後から2、3時間開錠していることが多い。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に把握が出来るように、出来るだけこまめに巡回や様子見を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や薬品は目の届かない所で保管している。その他の物については個別に注意をするなどしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状態に応じて入居者個々に考えて事故防止に取り組んでいる。また、発生した事故については報告書を作成し事故内容や対応について共有していけるように努めている。	○	職員全員がどの程度の知識などを有しているのか個人差がある。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人で年に1度救急救命講習を行っているが、全職員が受講することは出来ていない。	○	応急手当や初期対応の訓練は定期的に行えていないので定期的に職員への講習を行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	必要に応じて心身の状態の連絡とあわせて、転倒等の可能性について伝えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	勤務者との申し送りや連絡ノートでの伝達を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況表を作成し各個人の服用している薬の種類を確認出来る様にしている。 薬の副作用についての説明書を作成している。 受診の際に薬の追加や変更があった際には連絡ノートで回覧し伝えている。	○	服薬状況についての理解の程度に個人差があると思われる。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃から水分（特に乳製品や野菜ジュース）を多く摂ってもらうように配慮している。 水分や食事の摂取量を考えながら、便秘が続く時には坐薬、下剤の服用を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯洗浄は行えている。口腔内に問題がある場合は歯科受診をして頂いている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表にてチェックを行っている。量に低下がある時には補食で対応するなど気をつけている。 ご飯をお粥やパンに変えたり、刻み食やミキサー食にするなど出来るだけ入居者の希望や状態に合うようにしている。	○	副食のメニューについても嫌いな物が出た時には別の物を提供していただけるようにできれば良い。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ予防接種は毎年全員に受けて頂いている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁・まな板の消毒を毎日行っている。食材については厨房にて準備をしておき、GHでは必ず冷蔵庫にて適切に保管している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を置いたり、看板をかけるなどしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量が大き過ぎないように調節し、カーテンを使って採光を調節するなど配慮している。本を置いたりメダカや鈴虫を飼ったり観葉植物を置くなどしている。季節に合った小物（クリスマスツリーなど）を飾るなども行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席とソファがある。その他、トイレ横や玄関に長椅子を置いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から家具等を持ち込まれて現在も使 われている。入居後も花や人形、写真を飾ったり されている。必要に応じて居室の敷物を購入され る方もおられる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	冷暖房の設定温度や室内の換気には配慮して行え ている。臭いの気になる所には消臭剤を置くよ うにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	歩行器を使われる方には出入りのしやすい所で食 事をして頂くなど自立した生活が可能なよう に考えている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	一人ひとりの理解がどの程度あるのか、反応に気 をつけながら関わるように心掛けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	洗濯物の干す際には裏口を出入り口として使っ ているが、出入り口付近は狭く段差もあるので主 に職員のみ利用になっている。	○	段差を無くすなど入居者も出入りのし易い工夫を したい。時々、入居者と一緒に裏口へ出る事もあ るので、その回数や機会を増やしていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的でゆったりした雰囲気大切にしたいとの思いから入居定員は6名と少人数です。少人数であることもあり普段の生活の様子を一言で表すと“のんびりしている”が当てはまるかと思えます。入居者の皆さんの過ごし方は日によっても変わりますがお部屋で過ごされる方、テレビを観たり、ソファで休まれたり、散歩や買い物へ職員と出掛けたりと全員一緒に過ごしている事より個々のペースや状況に応じて様々な過ごし方をして頂いています。これからも入居者一人ひとりに合わせた接し方が出来るように努めていきたいと思えます。